

# 事例報告の要約

分科会：読み聞かせ(図書)

団体名(会員数)  おはなし会「ねっこぼっこ」  (18名)	(団体の住所/連絡先) 〒811-2244 糟屋郡志免町中央1丁目5-1(ふれあいセンター3F)  志免町民図書館		
	(電話)	(FAX)	(活動範囲)
	092-935-1007	092-935-3152	志免町内
事例報告者	代表 吉谷千枝子		
(タイトル)	子どもたちの笑顔に会いたくて		
<p>志免町の おはなし会「ねっこぼっこ」の紹介は、「2羽の小鳥」という歌を歌いながらの“指あそび”から始めさせていただきます。いつも子ども達の気持ちを引きつけてから、お話しを始めています。</p> <p>(設立の経緯)</p> <p>昭和57年親子読書会として発足し、その後子どもが成長していなくなり、平成7年に おはなし会「ねっこぼっこ」と改名し、現在は、図書館のボランティアとして活動を続けています。場所は、糟屋郡志免町の町民図書館を拠点として活動しておりますが、ここから連絡をいただいた各地へ出かけています。</p> <p>「ねっこぼっこ」とは、“ねっこぼっこ”という絵本がありますが、そのタイトルからいただいたものです。“ねっこ”は大地にしっかりと根を張る木の根っこのこと、“ぼっこ”とは子どものことで 冬の間、大地にしっかりと守られてやがて春には芽をだして、夏にかけて大きく成長する。一年たてば、また新しい芽をだすというお話に因んで「ねっこぼっこ」と呼ぶことにしました。</p> <p>会員は全部で18名です。内訳は、学校等のおはなし会に参加している おはなしの活動会員が7名、この7名は、お勤めの方もあって、出られる人でやっています。また、人前で話すよりも物を作ったり書いたり好きな人たちには、私たちが、お願いした物を作っていただく製作部会として6名、日頃は活動しないが図書館祭りなど大きな行事の際、声をかければお手伝いして下さる支援会員が5名です。</p> <p>(活動内容)</p> <p>近年は忙しく、去年は全部で約300回くらい出かけて行っております。今年はさらに増えているでしょう。活動の内容は、朝読書に行ったり、ブックトーク、絵本の読み聞かせ、人形劇の上演、工作作り、わらべ歌の紹介などですが、具体的な活動先と回数は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、定例会は、毎月の第2、3、4月曜日の3回で、皆さんで集まり話し合いを実施しています。その他、練習日やおはなし会準備などの会合が、月に5～6回入ります。</li> <li>2、幼稚園・保育所や、4つの小学校、2つの中学校でのおはなし会、ブックトーク・朝読書の読み聞かせなど年間178回です。</li> <li>3、そのほかに公民館外、公共施設でのおはなし会、就学就園前の乳幼児のおはなし会が、年間56回。</li> <li>4、志免町からの要請にもとづいてマタニティー講座や、0歳児親子教室でのおはなし会や、ブックスタート、子育て広場など、行政各課と協働して年間19回。</li> <li>5、研修会・講座・子ども工作教室等を主催したり、出かけて行ってわらべ歌や手遊びの紹介など図書館の行事等にも協力しています。</li> <li>6、県立図書館他各地で開催される研修会や講座には、積極的に参加し学習を重ねています。</li> </ol> <p>(今後の課題)</p> <p>後継者としての若い人の育成が、緊急の課題です。いつも旅役者のように沢山の荷物を持って出かけます。私たちの平均年齢も60歳を超えておりますので、この荷物が持てなくなったときは、ボランティア活動も終わりかな？といつも言っております。そういうことで若い後継者を育てるのは、重要な課題となってきました。ところが一昨年、図書館からの申し出で、4つの小学校でそれぞれ読書ボランティアを育てよう！ということで、各小学校に読書ボランティアが誕生し、活動を始めました。</p>			

今年に入り、小学校の読書ボランティアの一つと、ねっこぼっこが一緒になって、共同で授業を進めることとなり教科書のテーマに沿って、例えば 1年生であれば 教材“おむすびコロリン”という昔話の読み聞かせを一時間もらってすとか、5年生であれば、方言とか標準語とかを使って、一つの教材を地方の言葉で喋ってみて、授業を楽しむということをやっています。

もう一つの別の小学校の読書ボランティアと、最近、朝読書と一緒に参加するようになりました。朝読書の時間を 20分間 もらっていますが、小学校の読書ボランティアがまず子ども達に本を読んで聞かせ残った時間を ねっこぼっこが詩を読んだり、手遊びをしたり、お話しをしたりしております。

後継者を育てるという観点からすると、このように学校の読書ボランティアの人たちといろいろな所に一緒に出かけて行く機会を増やし、残りの2校の方達にも声をかけて将来は「ねっこぼっこ」に加わっていただけたらいいなあ、と思っております。

「ねっこぼっこ」立ち上げから28年、メンバーは変わっていますが、平成19年に文部科学大臣賞をいただき東京まで行きましたが、良い思い出として残っております。

また、日頃、老人会や保育所などいろんな所から声がかかりますが、時間のある限り断りません。テーマの「子どもたちの笑顔に会いたくて」に沿ってやっておりますが、子どもたちの前に立つと胸のドキドキも治まります。そして子どもたちから「又来てね！」と言われると、“このボランティアは止められない”とつくづく思います。私たちは、子どもたちに育てられていると思っております。体力の続く限り頑張り続けたいと思います。

#### (気をつけていること)

小学校へ入る時の心構えとして

まず、授業の一環として入るので、ボランティアといえども甘い気持ちで入ることは出来ません。

- 1、当日持って行くプログラムの作成には十分時間をかけ、どういう物を持って行くか慎重に計画を立て、皆で事前の打ち合わせや個人ごとに本を読む練習などしっかり行ないます。
- 2、学校に入る当日は、学年ごとにプログラムを持って行き、担任の先生にも「今日のお話はこういうものですから、〇〇の絵本を用意して置いてください。子どもたちが読み聞かせに使った本を、借りに来るかもしれませんから」とお願いをします。
- 3、卒業する 6年生の子どもたちに対しては、1年生から卒業までの6年間に「これだけの本を読んだヨ」と読んだ絵本のプログラムを渡します。すると忘れていた子どもも思い出して、懐かしんでくれます。

おはなしを聴いている子どもたちの表情は、話し手だけに見えます。子どもたちは、おはなしの主人公に心を重ねて、様々な感情を表に出してくれます。そのおはなしや絵本や言葉の力、作者の思いや画家の思い、読み手の人生も相まって子ども心に届いていることをその表情から読み取ることができます。おはなし会で出会った子どもたち一人ひとりの笑顔がこの活動の最高のご褒美、なんと幸せなボランティアでしょう。

# 事例報告の要約

分科会：読み聞かせ(図書)

団体名(会員数) 春日市子ども文庫・ 読書サークル連絡会 (15サークル)	(団体の住所/連絡先) 〒816-0831 春日市大谷6丁目24 春日市民図書館気付		
	(電話)	(FAX)	(活動範囲)
	092-582-4646	092-584-3900	春日市周辺地域
事例報告者	代表 岡 泉		
(タイトル)	読書ボランティア ～図書館との連携による地域の活性～		
私たちは「春日市子ども文庫・読書サークル連絡会」と言い、15団体が集まった連絡会です。 長いので、「文庫連」と呼んでいます。			
(設立の経緯) 親子読書が大変盛んだったといわれる30年位前と比べ、活動が低調で伸び悩んでいるという危機感を いろんなサークルが持っているなかで、14年前、エルマー書店を営む前園さんを始め12のサークル が集まり、春日市内の読書ボランティアの質の向上と交流を目的に、図書館と話し合いを重ねたうえで 発足することとなりました。 その当時、春日市には「親子読書の会」という年一回のイベントが行なわれていましたが、イベントではなく 日常的に子どもたちと接し、親子読書を盛んにして行こうという思いから、この「文庫連」という会を発足させ ました。12の団体から始まったものが、今年度(平成22年度)は、15の団体が参加しています。 15ある団体の活動はいろいろで、文庫だけのようなところもあります。 春日市には小学校が12校ありますが、その小学校で活躍している団体も加わって15団体が「文庫連」を 構成しています。			
(活動内容) 活動内容は、以下の3つに分けられます。			
1、連絡会全体の活動 各サークル間の交流および単独では難しい研修や視察などがあります。 (1) まず年1回の総会を行い、当年度の活動内容と連絡事項等を諮り決定します。 (2) また、毎年、そのときの話題の講師を招いた講演会の開催をしますが、研修を兼ねたものとしています。 講演会は、いつも誰でも参加できるオープン制にしておりますので、是非お出かけ下さい。 今のところ未だ決まっておりませんが、来年度の講演内容等決まりましたら春日市の図書館にチラシを 置いておきますので、ご覧ください。 また、私たちも「福岡子ども読書関連団体協議会」に入っていますので、そちらへも講演会の開催を紹介し ますので、是非お出かけいただきたいと思っております。 (3) この外に、市外団体の図書館の視察と交流ということでは、今年は久留米市の北野図書館に行き、 建物の建て方をはじめいろいろなことを学んできました。 この時は、春日市より無料バスの提供を受けることが出来ました。普段はサークルの代表しか集まらない のですが、この日は、各団体のメンバーの皆さんも参加され、現地での楽しい食事会やお喋りなどができて 大変良い交流会となりました。 (4) 年4回の代表者会は、秋の定例会が先週終わったばかりですが、私たちの連絡会の外に、子どもの 絵本の新刊紹介を前園さんにやっていただきました。その後、各団体の代表者のなかの数名の方に講師 役を勤めていただき勉強会をおこないました。新しい手遊びの紹介等もあり、各サークル間の連絡や報告 だけでない良い時間を持つことが出来ました。			
2、図書館との連携 「文庫連」では、設立当初から図書館との連携が大切であるとして、話し合いを多く重ねて参りました。 それは、春日市内の多く活動を「文庫連」に委託していただく結果となりました。 どの団体もボランティア活動に必要な財源確保に苦労がおりだと思っておりますが、私たちは年間10万円を 超える予算をいただいております。 もちろん年度によって額は違いますが、そのなかで活動させていただいております。			

図書館との連携としての、具体的な活動を紹介します

- (1) 赤ちゃんの4ヶ月検診の絵本紹介、わらべうたなどの紹介が月に2回あり、年間で 24回開催。
- (2) マタニティクラスでの絵本紹介を 年に6回開催。
- (3) 読書ボランティア講座で、初心者と経験者コース それぞれ年に4回開催。  
春日市において、図書館で活躍するボランティアを育てる目的で、ボランティア育成の講座を始められることとなりましたが、お話ボランティア講座の初心者と経験者コースの講師なども私たちに委託していただきました。私たちの日頃の活動が評価されたものとして、大変感謝しております。  
結果的に、私どもで ボランティアを育てる講座を開かせていただいていることとなりました。  
また、小学校にもお話ボランティア講座のチラシを配り、若いお母様方にも参加を頂いております。  
このお母様方は、小学校のお話ボランティアだけでなく他のサークルにも入って活躍をされており大変いいムードとなっております。
- (4) 子育て支援センターの主催企画にも月一回、年に12回行っております。
- (5) 市内小学校読書ボランティア交流会  
今年で14年間続いている行事で、その時々で教育委員会と協力しまして、いろいろな行事にご一緒に会を盛り上げています。  
今年度で第 6回になりましたが、春日市内12小学校の読書ボランティア交流会を提唱しまして、講演会と分科会を行なっています。  
各小学校それぞれいろいろな悩みがあるなかで、この交流会もなかなか盛況で、昨年度からは私たち「文庫連」や図書館が主催するのではなく、小学校のお母様方の中から実行委員会を立ち上げていただき、それをサポートする形でボランティア交流会を開くようになりました。  
この交流会も、益々楽しみになってきました。

### 3、各サークル活動

現在、15サークルありますが、それぞれ地域に根ざし、各地域の公民館、児童センター、小学校などで活躍しています。

それぞれのサークルの代表者がこの連絡会に集まったときは、毎回、その中から2～3サークルに実践紹介をしていただいております。この活動も私たちにとって大変意義のあることとなっております。

これからも他の団体の皆様に負けないよう、来年度はもっともっと頑張らなければ、と思いました。

# 事例報告の要約

分科会：読み聞かせ(図書)

団体名(会員数)  そらいろ文庫  ( 18 名)	(団体の住所／連絡先) 〒814-0104 福岡市城南区別府1丁目15-19 別府公民館内		
	(電 話)	(FAX)	(活動範囲)
	092-821-7489	092-821-2308	別府小学校内
事例報告者	代 表 小 崎 るり子		
(タイトル)	活 動 10 年 を 振 り 返 っ て		
<p>そらいろ文庫の活動について、ご報告いたします。</p> <p>そらいろ文庫は、今年で、10年目を迎えました。7月には、10周年記念公演と称して、立ち上げまでのエピソードを物語にした オリジナルのペープサートや「三枚のお札」の人形劇、花火や星を主題にしたブラックシアターなど10年の集大成として、大掛かりな作品に取り組みました。</p> <p>(設立の経緯)</p> <p>立ち上げは、平成12年9月に公民館の本の整理を手伝う図書ボランティア募集がありましたが、これに応募したメンバーを中心に、平成13年7月、本の整理だけでなく、子ども達に本の楽しさを届ける公民館の図書ボランティアとして「そらいろ文庫」を発足し、活動を開始しました。</p> <p>当初 6名のメンバーは、既に活動している文庫に運営方法を訊ねたり、お互いに仲間意識をもって活動して行くために試行錯誤を重ね、県や市の主催する図書館のボランティア講座に行ったりと、自分たちのできることを積極的に取り組み、現在に至っています。</p> <p>活動の目的は、本の貸し出しや読み聞かせ、おはなし会などの活動を通じ、子どもに本を読む楽しさや大切さ、保護者に読み聞かせの大切さなどを伝えることを大きな柱としています。</p> <p>構成は、活動趣旨に賛同したボランティア18名で活動しています。</p> <p>(活動内容)</p> <p>立ち上げから現在までの文庫の具体的な活動について、ご紹介します。</p> <p>1、文庫の立ち上げ方法</p> <p>誰もが気楽に本を借りることができるようにしたいと思い会員制のサークルではなく、しかもボランティア個人にも負担が掛からないような活動を考えて、公民館の図書ボランティア活動にすることを決めました。</p> <p>2、蔵書の増やし方と活動資金</p> <p>[立ち上げ当初]</p> <p>本が古く貸し出しや読み聞かせに使えるような本がなくて苦労しましたが、福岡市総合図書館の団体貸し出しと、モデル図書をあわせて約1千冊ほど借りることができました。</p> <p>また、福岡市総合図書館の年1回の廃棄本・除籍本を貰いに行きました。</p> <p>次に、図書にかかわる助成制度では、立ち上げから3年目に伊藤 忠財団に申し込んで、本の寄贈とお金の援助を頂くことができました。これで200冊程度本が増えました。</p> <p>[現 在]</p> <p>現在の蔵書は、1800冊(絵本1300冊・大人の本500冊)を擁し、年2回の総合図書館の団体貸し出し本(絵本400冊・大人の本150冊・紙芝居30)と合わせると、約2400冊を所有しています。</p> <p>活動資金は、公民館や他の団体の依頼による公演や講師派遣に対して支払われた謝礼や講師料を本購入費とし、また、公民館からの予算で本を購入しています。</p> <p>3、具体的な活動内容(本の貸し出し方法・おはなし会・定例会など)の紹介</p> <p>本の貸し出しは、本を借りたい人は誰でも登録ができ、一人につき 3冊まで借りることができます。</p> <p>毎月第2・第4土曜日の午前10時～正午までに公民館内、児童室にて貸し出しを行なっています。</p> <p>おはなし会は、公民館の文化祭も入れて年 4回～5回実施しています。</p> <p>また「赤ちゃんおはなし会」と称して平成21年4月からは、第4月曜日午前10時30分～正午まで実施しており、おはなし会および本の貸し出しを同時に行なっています。</p> <p>定例会は、年に5回～6回開きます。おはなし会の開催前にその企画内容の検討や活動方針を決める際に開いています。</p> <p>この外、公民館の依頼で講師を派遣したり、公民館以外でも、子どもたちにとっては早い時期から良い本に出会う必要があるということで、依頼があれば「出前おはなし会」も実施しています。</p>			

## 4、貸し出しの工夫

工夫の一つとして、すぐ見分けがつくよう本の種類により、背表紙に色分けをしたシールを貼っています。貸し出しカードを作っていますが、公民館所蔵の本には○の中に「こ」を、団体貸し出しの本には○の中に「市」と、仕分けが容易なように記入しています。その外、子ども用のシール帳台紙や、絵本を入れるバック・シール台帳入れフォルダーも作っています。このフォルダーは、借りた回数によりプレゼントとして贈呈することになっています。

## 5、活動の告知方法

活動のお知らせは、公民館だよりに貸し出しの日程や、おはなし会の日程・内容、さらにメンバー募集のお知らせなどを、随時載せてもらっています。また、おはなし会は、自分たちでチラシを作り小学校の全児童に配布してもらってます。本の貸し出し日には、公民館の入り口に「そらいろ文庫」の看板を出しております。

## (活動10年を振り返って)

そらいろ文庫では、当初から一貫して「できる人ができる時に できる事を楽しんでやる」というスタンスを守ってきました。

実際、アイデアや発想があっても、それを具体的に形や行動に移し実行してゆくことが困難な場合があります。しかし、一つの行事に取り組むときに、発想したことを声に出して言ってみると、必ず、それを具体的な形にしてくれる仲間がいます。

立ち上げからしばらく、メンバーが増えず頭打ちの状態の時も、肩に力をいれず出来る範囲で地道に楽しんで活動を続けてきたこと、また、何時でも誰でも入れる雰囲気を作ってきたことが、今日のそらいろ文庫につながっていったのだと思います。

貸し出し事業も、別府という場所が市の総合図書館から少し距離があるという立地条件も手伝ってか、毎回30名～40名の小学生や親子連れが利用しています。赤ちゃんおはなし会を始めてから、若いお母さんに加えお父さんの利用も増えてきました。

その一方で、小学校低学年では毎回足を運んでいた子ども達が、高学年になると文庫を離れてしまう現状があります。赤ちゃんやお年寄り向きの本はあるのに、高学年向きの本の整備が充実してないのも文庫離れの要因の一つかも知れません。

## (まとめ)

今後、息長く続けていくために、私たちが心がけなければならないことを述べます。

- 1、メンバー同士の意思の疎通をはかり、情報の共有と風通しの良い環境づくり。
- 2、公民館との共存共栄の関係をはかり、連携を大切にする。
- 3、ボランティア講座等に参加して、メンバー自身が常に勉強するよう心がける。
- 4、誰もが参加できるオープンな環境をつくる。
- 5、未来に繋げるため、やっている人が面白いと感ずる活動ができるようにする。